

Yokohama

協働の未来を プロボノでつくろう



人生100年時代。「教育→仕事→引退」という3ステージの生き方が変容し、学び直しや多様な働き方、セカンドキャリアなどに興味を持ちはじめた方も多いのではないでしょうか？

また、同じ組織の中に居続けることへの不安や、社外で学ぶことの重要性を感じる人も増え、ひとりひとりが自律的なキャリアをつくることにも関心が集まっています。

一方、コロナを経て、自分の暮らす「地域」が気になり始めた方も増えました。地域では、コロナ以前から多種多様なNPOや地域団体が社会や地域の課題に取り組んできました。

『YOKOHAMAコラボプロジェクト』は、横浜の団体と横浜に縁のある市民によるプロボノプログラム。

プロボノとは、社会人経験で得られたスキルや知識を活かすボランティア活動です。

さあ、あなたもプロボノで「地域」に出会い、異文化体験をしませんか？皆さんと一緒に、横浜にあたらしい価値を創り出せることを楽しみにしています。

プロボノ参加者募集中

締切：2022年8月15日(月)

費用：無料 *プロボノ活動に係る交通費等の費用はご自身で負担いただきます

お申し込み URL : <https://forms.office.com/r/zgHbymwS4A>

お申し込みはこちら

裏面もご確認ください



YOKOHAMAコラボプロジェクトは「プロボノに関する座学&ワークショップ(前半)」と「プロボノ受入れ団体でのプロボノ実践(後半)」で構成されています。

期間：2022年8月～2023年1月まで

前半 座学&ワークショップ 2022年8月

座学およびワークショップを全3回行います。第1回は公開講座のため、プロボノについて知りたい方や、実際のプロボノの活動をするか迷っている方などをご参加ください。

*なお、原則プロボノ実践(後半)を希望される方は、前半全3回すべてご参加ください。

公開講座 / 2022年8月17日(水) 19:00～20:30 / 定員 60名

第1回 入門編

オンライン

●プロボノとは？～越境学習としてのプロボノ～

●社会・地域課題や地域団体とは？
～未知との出会いは成長へのプロセス～

講師：高瀬桃子(関内イノベーションイニシアティブ株式会社)、他

第2回 実践編 -1-

オンライン

2022年8月24日(水) 19:00～20:30 / 定員 25名

●自分のスキルの棚卸
～自分のスキルや経験を見る化しよう～

●地域団体(プロボノ支援先)の紹介と課題の共有

講師：高瀬桃子(関内イノベーションイニシアティブ株式会社)
*第2回と第3回は連続講座です。

第3回 実践編 -2-

オンライン

2022年8月31日(水) 19:00～20:30 / 定員 25名

●ケーススタディ
～リアルな非営利団体の事例で疑似プロボノ～

講師：治田友香(関内イノベーションイニシアティブ株式会社)
*第2回と第3回は連続講座です。

後半 プロボノ実践 2022年9月上旬～2023年1月

座学&ワークショップ全3回に参加された方には、プロボノ実践(実際のプロボノ活動)を希望されるかお尋ねします。希望する場合、どの団体の支援を行いたいかについてアンケートを実施し、各団体へのプロボノメンバーを調整、確定します。

*実際のプロボノ活動への希望される場合は、原則来年1月まで関わっていただきます。

受入れ団体



各団体の詳細は裏面をご確認ください

実施スケジュール

2022年9月上旬	プロボノ実践(後半)参加意向の確認&プロボノチーム編成
2022年9月～12月	プロボノ活動実施(受入れ団体との顔合わせ、課題解決に向けた活動)
2023年1月	プログラム成果発表会

*第1回公開講座はプロボノに関心をお持ちのどなたでも参加可能です。 *宗教やネットワークビジネス等の勧誘、各種セールスを目的とした参加はお断りいたします。

詳細は <https://kyodo-c.city.yokohama.lg.jp/event/yokohamacollabonoproject2022-7-14/> をご覧ください

主催：横浜市市民協働推進センター(共同事業体：市民セクターよこはま、関内イノベーションイニシアティブ)、横浜市民局市民協働推進課 運営：横浜市市民協働推進センター

Yokohama コラボ プロジェクト 2022

コラボプロジェクトとは

横浜市市民協働推進センターでは、多様な主体が連携し協働することで地域や社会をよくする活動や取り組みをサポートしています。

当プログラムは、地域で活動する団体(NPO法人に限らず社会福祉法人や株式会社などさまざまな法人形態を含む)と、横浜で暮らす方や地域活動に関心を持つ方、横浜でお仕事をしている方々などをプロボノとしてマッチングし、協働して団体課題解決に取り組みます。

プロボノとは

プロボノとは、「社会人経験で得られたスキルや知識を活かして行うボランティア活動」です。最近では、単にボランティア活動としてだけでなく、仕事や会社以外の新たな活躍の場、普段なかなか出会うことのない人や団体と知り合う機会、やりたいことに思い切り取り組める場など、さまざまな意味合いを持ち合っています。

こんな方に 横浜市内在住在勤、横浜の市民活動に関心のある方

受入れ団体



équipe café

NPO法人エキープ

2017年6月にNPO法人設立。知的障害者、精神障害者に就労の訓練を行い、自立を促すための事業を行っている。カフェ運営、弁当の製造販売、清掃作業、ポスティング作業、自主製品の製造販売、企業からの請負作業など多岐に渡る。コロナ禍の2020年6月に、就労継続支援B型事業所「桜台メゾン」を開所。



フルリール

発達障害特性のあるパートナーとの関係性に悩むカサンドラ症候群当事者のセルフヘルプグループとして、2014年7月より活動開始。カサンドラ症候群は周囲から理解されずひとり悩みを抱え問題が深刻化しているケースが少なくない。当事者の語り合いや交流の場の提供の他、発達障害等に関するセミナーの開催、個別相談、カサンドラセルフヘルプグループ活動の立ち上げ支援等を行っている。



Childing YOKO HAMA

NPO法人よこはまチャイルドライン

2002年設立の認定NPO法人。子どもが安心して生きられる社会をめざし、電話を通して子どもの声に耳を傾ける活動を続けている。現代は子どもの周りの人間関係が希薄になり、周囲には親や先生など、縦の関係のおとなばかりという子どもたちが増えている。当団体は、子どもの周りから少なくなった祖父母や近所のひとなど「ななめの関係」のおとなをめざし、指示、命令、説教はせずに子どもたちをあたたく見守る活動を行っている。



株式会社 3丁目カフェ

代表大野承さんが35年のサラリーマン生活、10年の自治会など地域活動を経て、東急・横浜市の次世代郊外まちづくり活動の一環として2014年にカフェを開業。設立当初の経営危機を乗り越え、イベントホールとして年間500イベント、15,000人の利用者を得て2019年に黒字化するも、その後新型コロナが襲う。クラウドファンディングや社会のセーフティネットにより経営を維持。今後は地域の文化活動拠点としてさらなる発展を期待している。



ハートフル・ポート

代表五味真紀さんが、住宅街にある空き家となった一軒家の一階部分に命を吹き込み、住み開きカフェをオープンして8年。地域の居場所として気軽に立ち寄れるカフェ。誰もが主役になれるイベントなどを開催している。人が集まる場だからこそ見える地域の課題解決に向けて、住民自らが住みたいまちを自分たちでつくるための「まちのハブ的役割」を担っている。それと共に、地域に小さな居場所を増やす活動も展開したいと考えている。



ぱふいん

代表中川芳子さんが、地域に愛されたコミュニティカフェの跡地を利用し、2020年10月に子ども食堂を開始。第二の人生のスタートとして、子どもたちや地域の方の体に優しい食事を提供したいという思いから、一念発起し開業。店主の人情味溢れるコミュニケーションも相まって、学校でも家庭でもない居場所「サードプレイス」として、部活帰りや塾へ行く前の児童・生徒が連日来店し賑わっている。

講師プロフィール

高瀬 桃子

(関内インノベーションイニシアティブ株式会社)

東京都出身。横浜国立大学卒業。(公財)キープ協会環境教育事業部、(公財)日本野鳥の会普及室などを経て、2016年5月より現職。2016~2018年に横浜市経済局ソーシャルビジネス成長支援事業の一環として「プロボノ育成プログラム」を担当。

個人事業として非営利組織の広報支援も行っている。2015年ソーシャルビジネス・スタートアップ講座修了。2020年3月、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修了。「プロボノ」の個人的意義をテーマに研究を行った。



治田 友香

(関内インノベーションイニシアティブ株式会社)

マンションデベロッパー、NPO支援組織、起業家支援財団を経て、2013年6月から現職。NPO立法運動、自治体・企業のNPO支援策の企画を経験。「地域の課題に取り組む人やそれを応援する人を育てるための、講座事業や伴走支援事業等、さまざまなソリューションの提供を通じて、次の時代の街・社会の未来を担うエコシステムの形成を目指す」をコンセプトに、人材育成や組織の成長支援、調査研究やコンサルタント事業などに取り組む。

